

馬場 欣哉

Univ. of California, Berkeley

マウス有毛皮膚の触感覚神経の特性と Piezo2 チャネルの役割

すべての生物は、触感覚を様々な目的で利用している。その中でも、動物は様々な機械受容感覚器で、外界の変化を感知し行動決定に利用したり、内的な状態をモニターして、適切な姿勢や運動制御に役立てている。触覚、自己受容器などがその典型である。教科書には皮膚の触圧の感覚神経として、パチーニ小体、マイスナー小体、メルケル盤、ルフィーニ小体、が記載されていつが、これは無毛皮膚での感覚器の種類であり、マウスの有毛皮膚では毛根基部に付着する神経、神経自由末端、メルケル盤が主に触圧感覚神経として働いている。

近年、哺乳類の皮膚の機械感覚 (Piezo) や侵害感覚チャンネル (TRP) が同定され、その役割が明らかにされている。

本セミナーでは、近年報告されたマウスの有毛皮膚の感覚神経とその特性、Piezo2 チャンネルの有毛皮膚感覚神経での役割について説明する。

*本セミナーは大学院共通授業科目「脳科学研究の展開IV-b」の指定講演会です。

2022年9月15日 (木)

17:00~18:30

理学部5号館 (高層棟) 813号室

*体調の優れない方の入場はお断りします。参加される際は必ずマスクを着用し、入口で手のアルコール消毒を行って下さい。

世話人：小川宏人 (内線 3525, hogawa@sci.hokudai.ac.jp)